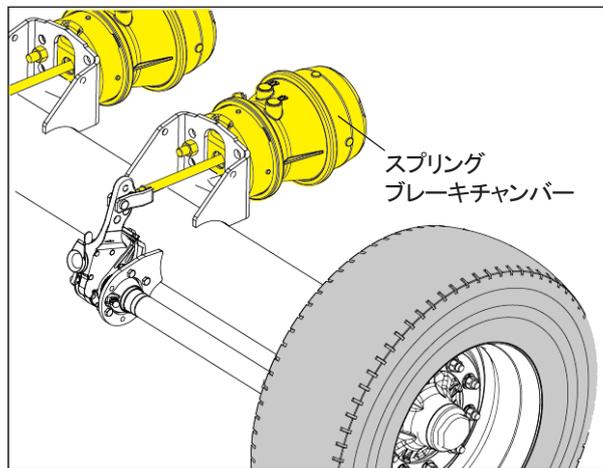




リリースボルトを使用した スプリングブレーキ解除方法

[BPW製 スプリングブレーキチャンバー]



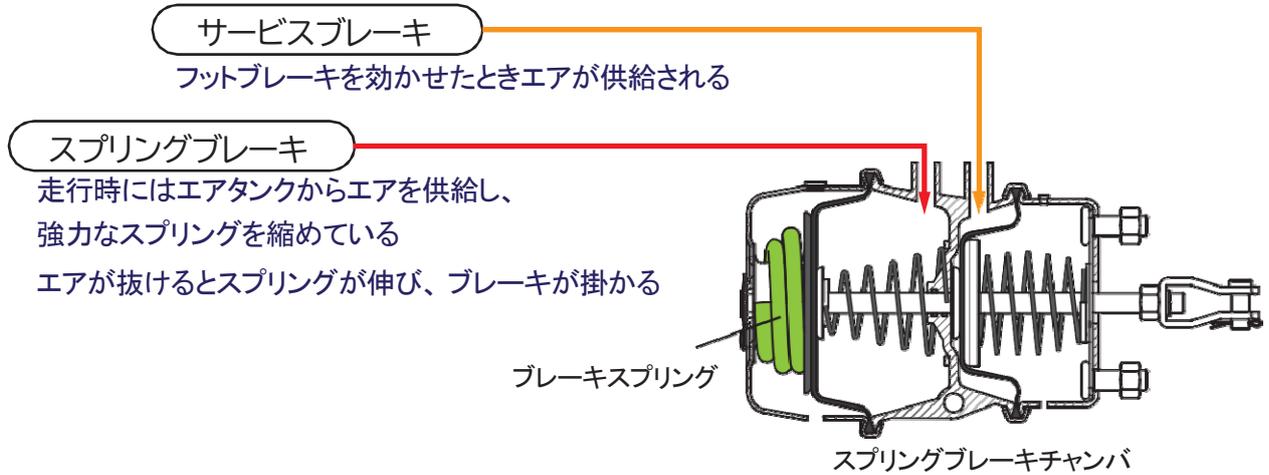
故障等でエアタンク圧が減少し0.5Mpa以下になると、スプリングブレーキチャンバー内にあるスプリングブレーキの作動が始まります。タンク圧 0.5Mpa以下での走行は、ブレーキを引き摺り、加熱するため行わないでください。

エアタンク圧が低い場合は、チャンバー側面についている**リリースボルト**を使い強制的にスプリングブレーキ解除をすることで退避走行ができます。

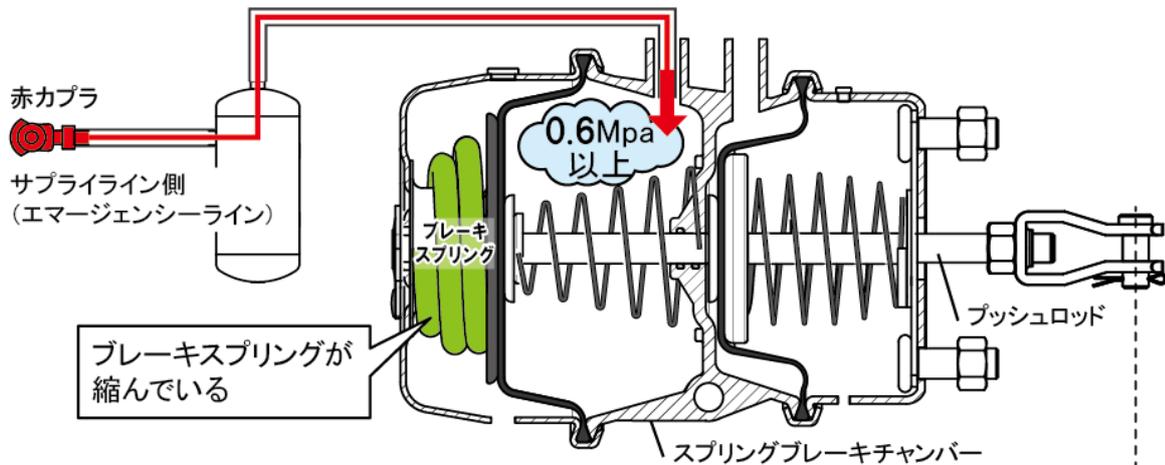
日本トレクス株式会社

スプリングブレーキの仕組み

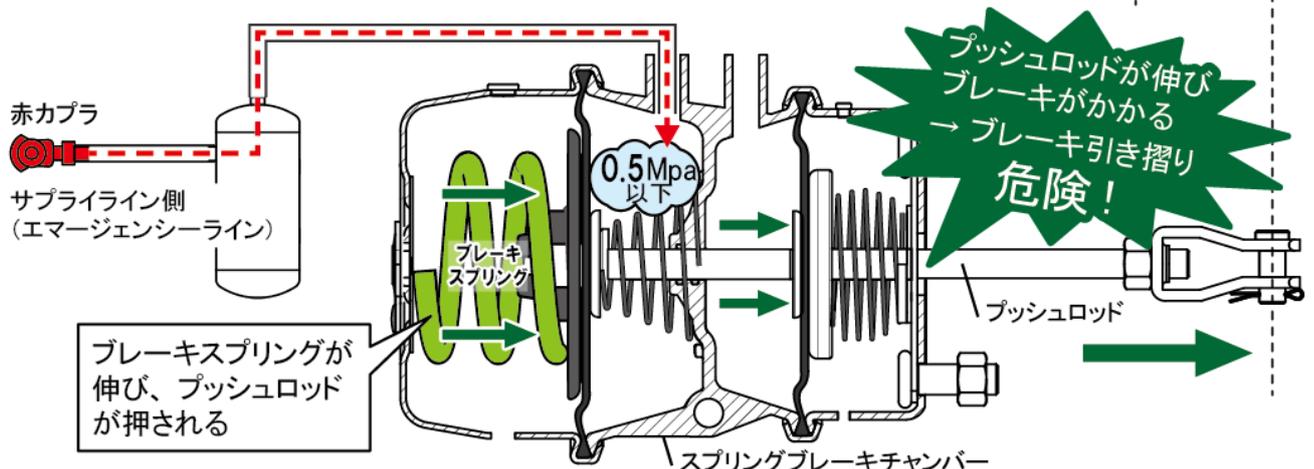
スプリングブレーキチャンバは、サービスブレーキとスプリングブレーキが前後に配置された形になっています。



走行時 エアタンクからエアが供給され、ブレーキスプリングが縮まっている



スプリングブレーキ作動 故障等でエアタンク圧が0.5Mpa 以下になると、スプリングブレーキの作動が始まります。

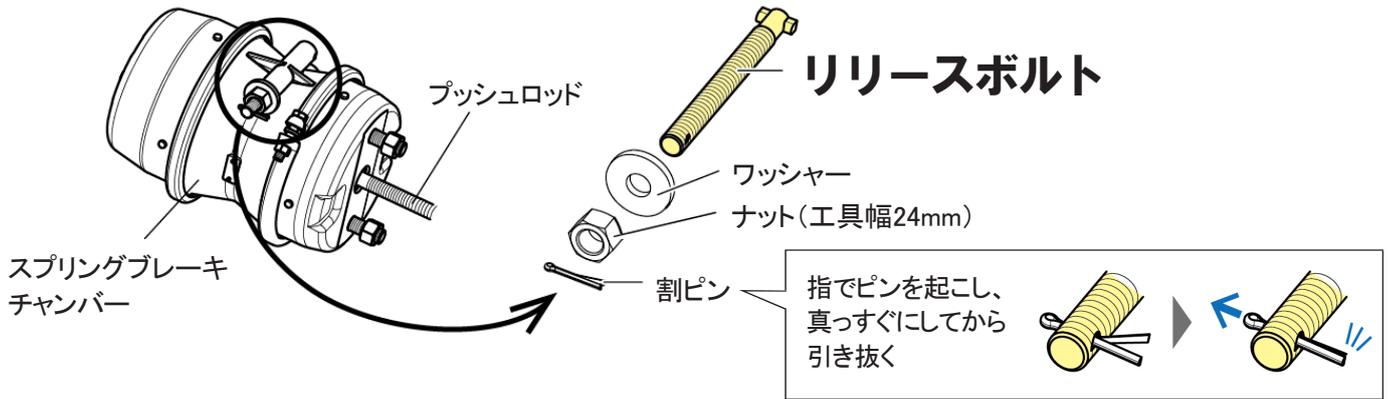


スプリングブレーキ解除の作業手順

エア漏れ時
退避走行用

必要工具 24mm スパナ または モンキーレンチ

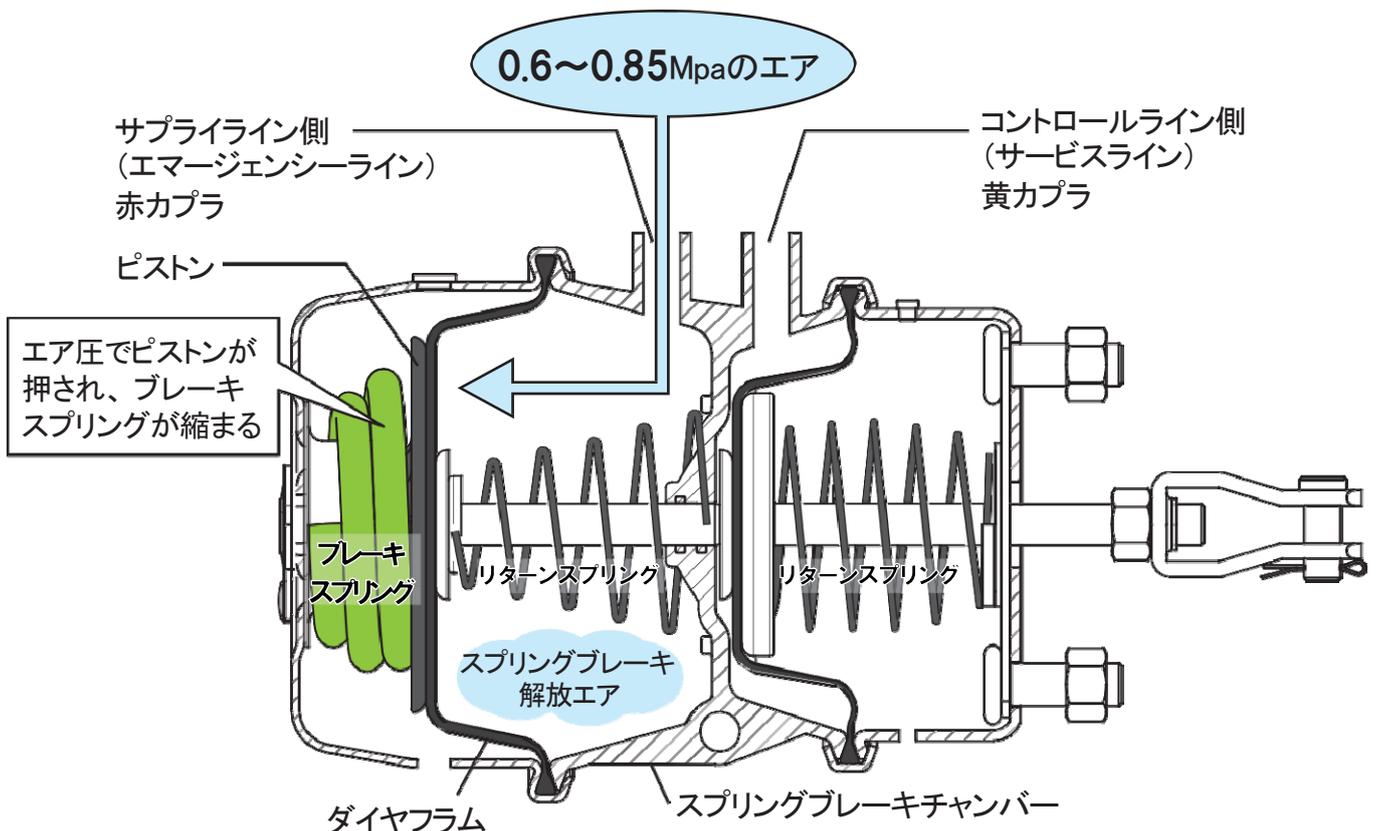
1 スプリングブレーキチャンバーからリリースボルトを取り外す。



2 可能ならスプリングブレーキエア供給口にエアを供給する。
→ スプリングブレーキが縮まるため労力が軽減されます。

※エア圧が 0.6Mpa より少ない場合は、
手動でスプリングを巻き上げることになります。
スプリングは固いため解除に時間がかかってしまいます。
(1つあたり 5 ~ 10 分程度)

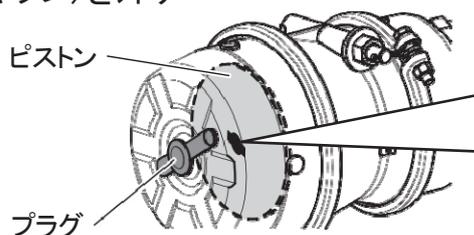
0.6Mpa でスプリングブレーキが
ほぼ圧縮されます。
0.85Mpa を超えないで下さい。



3

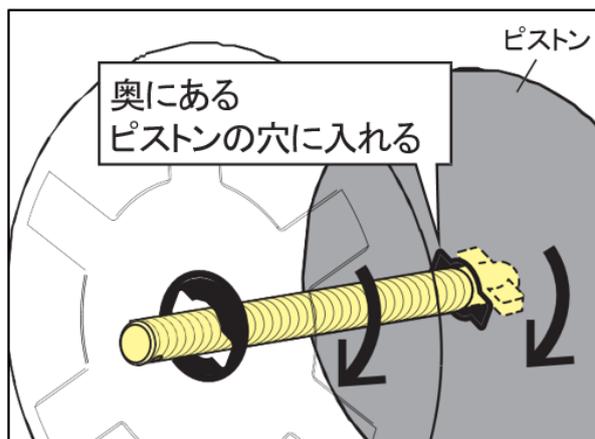
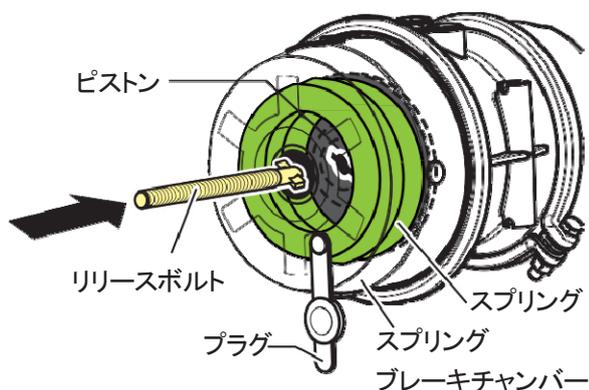
リリースボルトでブレーキスプリングのピストンを巻き上げて、スプリングを縮める。

① プラグ(ゴムキャップ)を外す

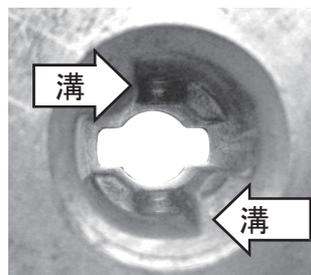


プラグを外すと左図のようなピストンの穴が奥の方にあります。エアが入っていない場合はピストンが奥にあるため、ライトで照らして穴を確認します。

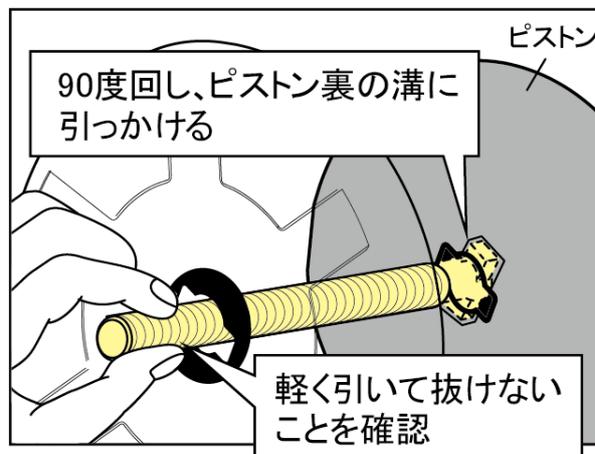
② リリースボルトを穴から挿入し、奥のピストンの穴に合わせ差し込む。



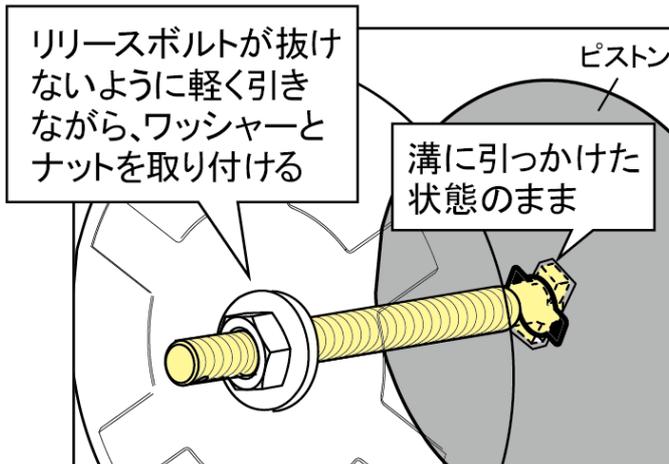
③ リリースボルトを時計回りに90度回し、ピストン裏の溝に引っかける。
※軽く手で引いて抜けないか確認する。



ピストン穴の裏側



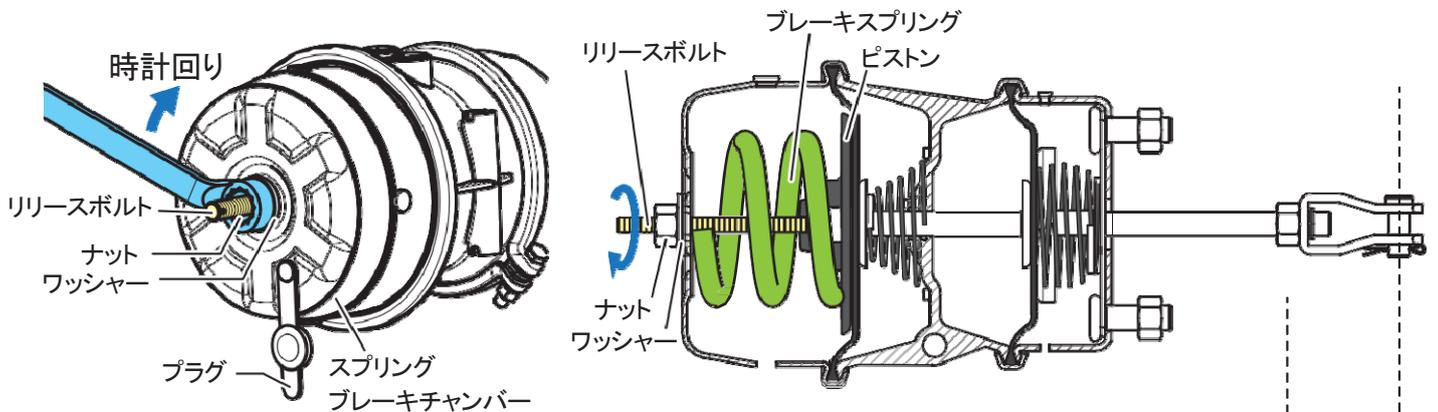
④ リリースボルトが抜けられない状態でワッシャーとナットを取り付ける。



⑤ 24mmスパナ(モンキーレンチ可)でナットを時計回りに固くなるまで締めこみ、完全にリリースボルトを巻き上げることでブレーキスプリングを縮める。

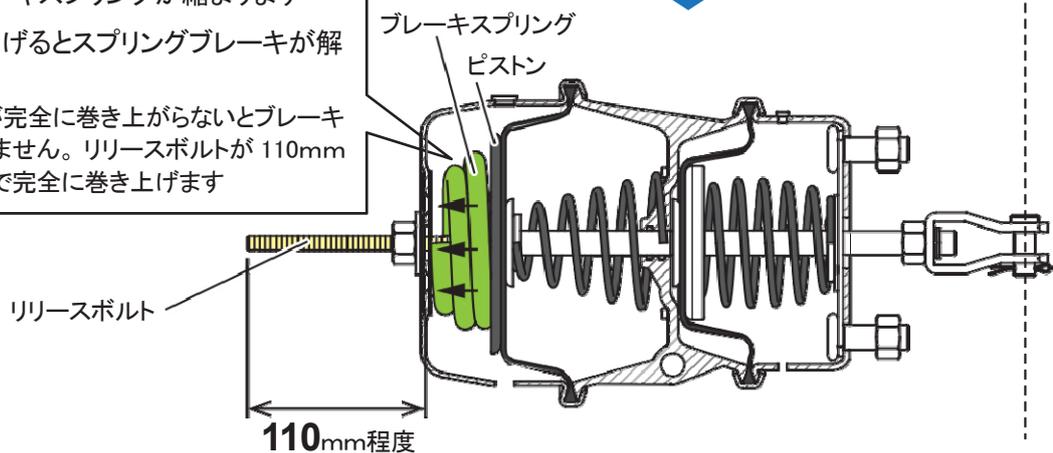
→ スプリングブレーキが解除されます。

(スプリングブレーキエアを解放してもスプリングブレーキが作動しません)



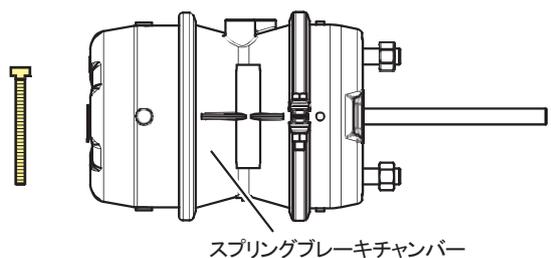
ナットでリリースボルトを巻き上げ

リリースボルトが巻き上げられるとピストンが引き上げられブレーキスプリングが縮まります
 → 完全に巻き上げるとスプリングブレーキが解除されます
 ※スプリングが完全に巻き上がらないとブレーキは解除されません。リリースボルトが110mm程度出るまで完全に巻き上げます

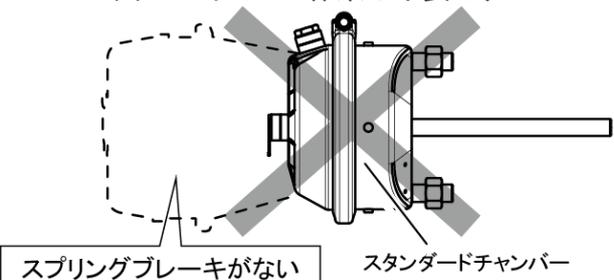


4 **3** の要領で全ての輪の**スプリングブレーキチャンバー**の**スプリングブレーキ**を縮める。

全ての輪においてスプリングブレーキチャンバーのリリースボルトの作業が必要です



スタンダードチャンバーはリリースボルトの作業は不要です



5 退避走行させる。

本紙についてのご質問は
弊社「サービス部」へお問合せください。

日本トレクス株式会社 サービス部
愛知県豊川市伊奈町南山新田350
TEL 050-3367-7494 (直通)
FAX 0533-78-3137

各サービス拠点への
お問い合わせはこちらから



(無断転載を禁ず)

2024年 9月 発行